

## 黒田清輝氏の美術教育に關する上申書(承前)

### 四、美術學校に於て修むべき技術は日本畫西洋畫及塑造の三科とすべし

造形術の重要なものは繪畫と彫塑とにして其目的は一種の精神を表顯するが爲めに完全なる物形を作るにあり故に主なるものは物形にして敢て材體の如何を問はず簡易にして充分の技能を顯はすを得べき手段を採るべきなり繪畫にありて紙又は布に畫くと陶器瑠瑯若しくは織物に寫すと其根原の術は一なるが如く彫塑にありても泥土にて作りたる形は之を木石牙角に彫り若くは金屬に鑄造したるも之を作るの術は一なり我邦古代の彫刻物に木製多しと雖も之を美術なりとするは必らずしも木に彫りたるが故にあらずして顯れたる形の美なるが爲なり希臘古代の石像を貴重なりとするも石を彫むの術を賞するにあらず材體の如何は毫も美術の價値と關係せず然るに世人は彫刻なる譯語を見て直ちに彫石彫木の工技を以て美術と認むるが如きあらば誤解もまた甚しきものなり古へ分業の行はれざりし時代に技術家は自ら手を下して木石の彫刻をなせりと雖も今日の彫刻家は原型を作るに止まり彫刻の工技は之に熟したる職工に委任したり木彫石彫の美術にあらざること石膏鑄型の美術にあらざると同じく明白なる事實なりとす故に從來の彫刻科の如く木彫の技を主とするを改めて完全の物形を製出する塑造術を學ばしめて原型に重きを置くべし歐洲諸國の各美術學校には繪畫彫塑の外に建築科を置くも雖ども建築は工科大学に造家學科の設けあるを以て更に美術學校に於て類似の科を設くるの急要あるを認めず